

1)NPO小鳥レスキュー会の活動報告

2)2016年7月1日に開設しました里親ステーション「鳥の駅」の運営報告

3)会の抱える問題

会の抱える問題1 ー社会的な問題ーNPOって何!?

会の抱える問題2 ー現実的な問題ー収支

会の抱える問題3 ー現実的な問題ー飼い鳥の引き取りについて

会の抱える問題4 ー現実的な問題ー里親の募集について

会の抱える問題5 ー現実的な問題ー迷子・放置された鳥について

会の抱える問題6 ー現実的な問題ー野鳥の扱いについて

4)国の抱える(社会的な)問題

ペットの扱い、ペットへの認識、商用動物の役割とその最後

迷子・破棄・放置は拾得物扱いか?警察に届けられた動物たちのその後

野鳥 外来種の扱いと保護 本当に保護されているのか。

埼玉県と獣医師協会の決め事、とその流れ

商用動物に対する税金の予算がないこと、また助成金もないこと

5)個人の抱える問題

高齢者の飼育サポート(引き取り、健康管理)

単身者の飼育サポート(入院時の不安、万が一の場合、震災時)

6)会のこれから

7)皆さんに協力していただきたいこと

※意見記入シートを配布しました。

MTの時間が限られていますので 疑問質問などがありましたら後日回答いたします。
また 意見などがありましたら どんどん書いていただいても結構です。
同時にアンケートも記載していますので ご協力をお願いいたします。

1)NPO小鳥レスキュー会の活動報告

集計期間:2016年4月～2017年3月

鳥の引き取り相談件数(名前を名乗った方) 96件
鳥の引き取り相談件数(名前を名乗らない方)54件
その他、警察・福祉課・養護施設などからの相談 28件
幼稚園などからの相談 2件
野鳥に関する相談 17件
その他 会に関する問い合わせ 14件

引き取りした飼い鳥の羽数 199羽 (文鳥136羽 セキセイ28羽 他35)
迷子鳥の引き取り件数(2017年3月より) 26羽
放置された鳥の件数 6件(18羽)
引き取りした野鳥の羽数 12羽 スズメ メジロ キジバト ひばり ムクドリ ヒヨドリ

現在レスキューで飼育している羽数
7月現在の収支では510羽 (小鳥のやど 130羽 看護室扱い98羽)
実際は738羽

2)2016年7月1日に開設しました里親ステーション「鳥の駅」の運営報告

集計期間:2016年4月～2017年3月

見学者数 384名(うち小鳥のやどのお客さん288名その他96名)
ボランティア参加数 128名 (うち1回だけの参加108名、2回以上の参加14名)
里親申し込み件数 96名(うち里親になった件数 27名48羽)
会員の入会申し込み62名(うち入金が確認された件数22件)
寄付をしていただいた件数(わかる範囲になります)192名(うちやどのお客さん7割)

寄付金額の合計などは収支を参照ください。
次回は集計を記載するようにします。

3) 会の抱える問題

会の抱える問題1 社会的な問題—NPOって何!?

1. 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
2. 社会教育の推進を図る活動
3. まちづくりの推進を図る活動
4. 観光の振興を図る活動
5. 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
6. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
7. 環境の保全を図る活動
8. 災害救援活動
9. 地域安全活動
10. 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
11. 国際協力の活動
12. 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
13. 子どもの健全育成を図る活動
14. 情報化社会の発展を図る活動
15. 科学技術の振興を図る活動
16. 経済活動の活性化を図る活動
17. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
18. 消費者の保護を図る活動
19. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
20. 前各号に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動

↓ ↓ ↓ レスキュー会が選択した活動の種類(定款抜粋)

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (3) 環境の保全を図る活動

この項目に適さない団体については助成金を得ることは難しいのが現状です。

これは犬や猫の団体も同じことです。

それでも行政と仕事をしていく上ではNPOであることが条件であったり・・・

行政にできない柔軟な対応を求められたり、実は行政にとっての便利な団体に過ぎないのかもしれない。同じ環境保全であっても 野鳥や川、里山などの保全活動については助成金を募集している。

会の抱える問題2 現実的な問題—収支

金銭面については収支の数字のとおり、毎月赤字の運営であり、役員間で穴埋めをして運営している。

受け入れる羽数はどんどん増えるが、里親ででていく数は少ないのが現状。

これについては里親の問題の項でふれます。

会の抱える問題3 ー現実的な問題ー飼い鳥の引き取りについて

10年前の引き取りの理由とここ2～5年の引き取りの理由が明らかに変化している。

引き取りした飼い鳥の羽数 199羽

飼い主さんが入院・死亡による飼育継続が困難な場合は18件のみ
その他は明確でない理由が多くなってきている。

多かった理由(理由にならない理由が多くなってきている)

- 世話をする時間がとれない
- 手乗りでない
- 移転するため
- 結婚・出産するため
- 病気になったから
- かわいくない
- いらない
- かむため
- 他の鳥を飼うから
- 犬の方がよい

引き取り依頼の件数は223件なのに実際は161件の理由

当会の引き取り条項として、健康な飼い主が鳥を手放す場合の条件が以下である。

- ・ケージごと当会まで持参していただく
- ・健康診断代の半額を負担していただく(1羽4000円～5000円程度)

上記の条件を伝えると、約束した日時に来ない。
キャンセルの連絡が入る、というのが全部がこない理由。
だいたいジモティやペットのおうちなどのSNSで、里親を募集し、譲渡している。
ひどい場合は外に放す、餓死させる、というケースも意外と多くある。

人間に飼われていた鳥たちに罪はないので、なるべく引き受けたいという思いはあるが、それだけでは崩壊してしまう。
以下、検討課題(現状は費用の負担がなくとも引き取りをしている)

- ・特にブリーダーが飼育しているケース
- ・問屋さん、店舗の問題のある鳥たち
- ・奇形、病気
- ・外に飼育されているケース(細菌、原虫、ウイルスの感染)
- ・飼育崩壊や生活保護を受けているケース

会の抱える問題4 ー現実的な問題ー里親の募集について

一時 無償で里親を募集したが、軽く考えてしまう方がいるため、現在無償にはしていない。

その結果、里親に出す羽数は四分の一程度になった。

現在は、会への入会または合計10時間のボランティア活動が里親の条件。

前項の入会申し込みをされていてキャンセルされる理由がこれに該当する。

おそらく金銭的な計算があり、オカメの里親になりたいので入会します、という

申し込みがくるが、希望のカラーがない場合にキャンセル、となる。

要はお店でオカメを買って1羽2万円～、入会して2羽＝安い、という算段が窺える。

現在、当会の里親募集データベースには、マメルリハやオカメなどは里親の募集はしていない。

理由としては2万円以上の鳥種を記載した場合に電話での問い合わせが多くなるためである。

里親を選ぶ条件はとても難しい、これも課題である。

会の抱える問題5 ー現実的な問題ー迷子・放置された鳥について

これに関してはほぼ無条件でレスキューをしている。

問題としては、烏骨鶏1羽であっても 虫駆除代などで3万円程度かかること、スペースが必要なこと、鳴き声がうるさく、里親が見つかりにくいこと。

会の抱える問題6 ー現実的な問題ー野鳥の扱いについて

野鳥に関しても可能なかぎり引き取りを行っている。

これについては次項で説明します。

4) 国の抱える(社会的な)問題

ペットの扱い、ペットへの認識、商用動物の役割とその最後

迷子・破棄・放置は拾得物扱いか？警察に届けられた動物たちのその後

野鳥 外来種の扱いと保護 本当に保護されているのか。

埼玉県と獣医師協会の決め事、とその流れ

商用動物に対する税金の予算がないこと、また助成金もないこと

震災時の考え方も変化してきた

5) 個人の抱える問題

高齢者の飼育サポート(引き取り、健康管理)

単身者の飼育サポート(入院時の不安、万が一の場合、震災時)